

令和 6 年度
事業報告書(案)

自 令和 6 年 4 月 1 日
至 令和 7 年 3 月 31 日

学校法人松山ビジネスカレッジ

1. 法人の概要

(1) 建学の精神

学校法人松山ビジネスカレッジの歴史は、昭和 21 年に洋裁師の養成を目的として設立された「松山洋裁女学院」にさかのぼる。昭和 41 年 12 月には学校法人山本学園が設立され、昭和 51 年以降、松山女学院ドレスメーカー専門学校、松山デザイン専門学校、松山歯科衛生士専門学校など、社会の要請に応じた専門学校を順次開校し、職業に直結した実践的な専門教育を展開してきた。

平成 25 年 4 月には法人名を「学校法人松山ビジネスカレッジ」へ改称し、平成 26 年 4 月には、学生が学科を横断して柔軟に学べる教育環境の実現を目指し、学校および学科の統廃合を含む大幅な再編を行い、現在の 2 校 4 学科体制へと移行した。

また、令和 2 年 10 月には、学校法人河原学園と「アライアンスパートナー契約」を締結し、双方の強みを活かした地域における教育の質の向上と、社会で活躍できる人材の育成を目的とした連携体制を構築した。

本法人は、「豊かな教養と高度な専門性を持った人材育成」「学生が主体的に学ぶ授業」「対話を重視した教育」「地域との調和と共存」の 4 つの教育理念を掲げ、「きびしく、やさしく、ていねいに」を教育方針としている。78 年にわたる歴史と伝統を継承しつつ、実務に即した教育を実践してきた結果、卒業生は累計 15,000 人を超え、地元愛媛はもとより、国内外において幅広い分野でプロフェッショナルとして活躍している。

今後も、社会の多様なニーズに応じた学科・専攻・カリキュラムの整備に全力で取り組み、豊かな人間性と高い専門性を備えた人材の育成を通じて、地域社会の発展に寄与していきたいと考えている。

(2) 学校法人の沿革

昭和 21 年 3 月	松山洋裁女学院を松山市花園町に設立
昭和 23 年 4 月	松山洋裁女学院 設置認可
昭和 32 年 10 月	杉野学園ドレスメーカー女学院の指定校となる
昭和 41 年 12 月	松山技芸専門学校を吸収合併
昭和 41 年 12 月	学校法人山本学園設立
昭和 43 年 3 月	松山市一番町に校舎落成
昭和 46 年 7 月	各種学校松山技芸専門女学院 閉校
昭和 49 年 10 月	各種学校松山デザインスクール 開校
昭和 51 年 4 月	松山女学院ドレスメーカー専門学校、松山デザイン専門学校 開校
昭和 55 年 4 月	松山歯科衛生士専門学校 開校
昭和 61 年 4 月	松山コンピュータ専門学校 開校
昭和 62 年 3 月	準学校法人相原学園を吸収合併
昭和 62 年 4 月	松山情報ビジネス専門学校 開校（松山タイピスト専門学校を変更）
平成 3 年 3 月	松山市辻町に校舎落成 松山コンピュータ専門学校、松山デザイン専門学校を移転
平成 7 年 4 月	松山医療福祉専門学校 開校
平成 14 年 9 月	松山市竹原に校舎落成（松山医療福祉専門学校を移転）
平成 21 年 7 月	一番町校舎全面リニューアル完成
平成 22 年 3 月	松山医療福祉専門学校 閉校

平成 25 年 4 月 学校法人山本学園から学校法人松山ビジネスカレッジへ法人名変更
 平成 26 年 3 月 松山デザイン専門学校、松山情報ビジネス専門学校を統合のため閉校
 平成 26 年 4 月 松山女学院専門学校から専門学校松山ビジネスカレッジ クリエイティブ校へ校名変更（女学院とデザインの統合）
 松山コンピュータ専門学校から専門学校松山ビジネスカレッジ ビジネス校へ校名変更（コンピュータと情報ビジネスの統合）
 平成 29 年 4 月 松山歯科衛生士専門学校を辻町校舎へ移転
 令和 2 年 10 月 学校法人河原学園とアライアンスパートナー契約を締結
 令和 4 年 4 月 専門学校松山ビジネスカレッジクリエイティブ校から松山デザイナー専門学校へ校名変更（ファッションビューティ学科をファッションクリエイター学科（3 年制）、ファッションビジネス学科（2 年制）へ学科編成を変更、総合デザイン学科を Web クリエイター学科へ変更）し辻町校舎へ移転

（３）設置する学校・学科・専攻等

設置する学校	開校年月	学科・専攻等	摘要
松山デザイナー専門学校 (松山市辻町 1-33)	昭和 51 年 4 月	・ファッションクリエイター学科 ファッションクリエイターコース ファッションデザイナーコース パタンナーコース ・ファッションビジネス学科 ショップマスターコース スタイリストコース ・Web クリエイター学科 Web クリエイターコース	
松山歯科衛生士専門学校 (松山市辻町 1-33)	昭和 55 年 4 月	・歯科衛生学科	

（４）学校・学科の学生数の状況

令和 6 年 5 月 1 日現在 （単位：名）

学校名		入学定員数	収容定員数	現員数	摘要
松山デザイナー専門学校	・ファッションクリエイター学科 ・ファッションビジネス学科 ・Web クリエイター学科	80	180	76	
松山歯科衛生士専門学校	歯科衛生学科	40	120	124	

(5) 役員の概要

令和7年3月31日現在
定員数 理事5名 監事2名

区 分	氏 名	常勤・非常勤の別	摘 要
理 事 長	河 原 成 紀	非常勤	令和2年10月理事・理事長就任
常務理事	松 岡 由紀子	非常勤	令和2年10月理事・常務理事就任
理 事	河 原 次 瞭	非常勤	令和2年10月理事就任
理 事	芦 田 宏 直	非常勤	令和2年10月理事就任
理 事	室 利 幸	非常勤	令和3年4月理事就任
監 事	宮 部 高 至	非常勤	平成24年12月監事就任
監 事	山 本 秀 人	非常勤	令和2年10月監事就任

(6) 評議員の概要

令和7年3月31日現在
定員数 11名

氏 名	主な現職等
河 原 成 紀	学校法人松山ビジネスカレッジ理事長、学校法人河原学園理事長
河 原 次 瞭	学校法人松山ビジネスカレッジ理事、学校法人河原学園学園長
松 岡 由紀子	学校法人松山ビジネスカレッジ常務理事
室 利 幸	学校法人松山ビジネスカレッジ、学校法人河原学園
芦 澤 昌 彦	学校法人松山ビジネスカレッジ、学校法人河原学園
中 村 亮	学校法人松山ビジネスカレッジ、学校法人河原学園
大 川 隆 英	学校法人松山ビジネスカレッジ、学校法人河原学園
露 口 武 志	学校法人松山ビジネスカレッジ、学校法人河原学園
河 端 浩 美	学校法人松山ビジネスカレッジ、学校法人河原学園
高 橋 良 昌	学校法人松山ビジネスカレッジ、学校法人河原学園
清 水 綾	学校法人松山ビジネスカレッジ 松山歯科衛生士専門学校副校長

(7) 教職員の概要

令和6年5月1日現在 (単位: 名)

区分		本部	松山デザイナー 専門学校	歯科衛生士校	計
教 員	本務		6	4	10
	兼務		29	42	71
職 員	本務	12	3	2	17
	兼務				

(8) 施設等の状況

所在地	施設等	面積等	摘要
愛媛県松山市 一番町 (一番町校舎)	校地	725.27 m ²	松山デザイナー専門学校と本部(管理本部)が一部使用
	校舎	271.82 m ²	
	校地(駐輪場)	130.24 m ²	
愛媛県松山市 辻町 (辻町校舎)	校地	1,090.90 m ²	松山デザイナー専門学校と松山歯科衛生士専門学校と本部(進路指導部)が使用
	校舎	2,338.81 m ²	

2. 事業の概要

(1) 事業の概要

令和6年度は、創立78年の歴史と伝統を基礎とし、「豊かな教養と高度な専門性を持った人材育成」「学生が主体的に学ぶ授業」「対話を重視した教育」「地域との調和と共存」の教育理念のもと、きめ細かな指導を徹底し、自立した職業人を輩出する地域に不可欠な専門学校を目指して事業を展開した。

令和4年4月に開校した松山デザイナー専門学校においては、業界の第一線で活躍する講師による実践的指導を強化し、ファッション業界やWeb業界で活躍するクリエイターの育成を推進し、専門職における就職率100%の達成を目標とした。松山歯科衛生士専門学校においては、新カリキュラムの定着を図り、国家試験および医療事務技能審査試験の合格率100%、介護職員初任者研修修了率100%の実現を目指した。

また、一番町校舎の有効活用による収益事業を通じて法人の経営基盤の安定化を図り、教育環境の整備・充実および教職員の処遇改善にも努めた。

(2) 主な事業の目的・計画およびその進捗状況

① 広報活動

松山デザイナー専門学校においては、「ファッションクリエイター学科(3年制)」「ファッションビジネス学科(2年制)」「Webクリエイター学科(2年制)」の3学科における県内外での認知度向上を最優先課題とした。パンフレットの配布、分かりやすいホームページの作成に加え、TVCM、Web広告、SNSを活用した積極的な広報活動を展開した。

松山歯科衛生士専門学校においては、より多くの志願者を獲得するため、ターゲット校や進学校に対する教員・保護者・高校生向けの情報発信を強化し、志願倍率の向上に取り組んだ。

これらの取り組みの結果、令和7年度入学における2校4学科の募集実績は、ファッションクリエイター学科13名、ファッションビジネス学科13名、Webクリエイター学科13名、歯科衛生学科43名の計82名となった。

② 教育活動

【松山デザイナー専門学校】

3学科において、基礎から専門・実践までを網羅した充実したカリキュラムを通じて、圧倒的な実習時間の確保により専門技術の習得を図り、プロフェッショナルの育成に取り組

んだ。加えて、コンテスト、コンペ、学園祭、松山コレクションなどのアウトプット機会を多数設け、技術力および表現力の向上を促進した。

また、産学連携の一環として「一粒萬倍」舞台衣装制作への参画や、韓国・東京での研修旅行による現場体験の提供など、実践的な授業内容の充実を図った。学生一人ひとりの個性を尊重しつつ、知識・技術の向上、資格取得、関連企業への就職率 100%の実現を目指し、出席率・課題実施状況・検定結果・技術評価などの情報を教職員間で共有し、きめ細かな指導を徹底した。

【松山歯科衛生士専門学校】

国家試験合格を見据えた基礎教育の強化に加え、医療人としての思考力育成に重点を置いた教育を展開した。近年の国家試験では知識の応用力や思考力を問う問題が増加しており、チーム医療の一員として活躍するための資質としても不可欠であることから、本年度より重点的な取り組みを実施した。

③ 就職支援

就職課と教員が密に連携し、校内企業説明会、職業人講話、企業見学、インターンシップなど各種セミナーやイベントを実施した。加えて、履歴書やエントリーシートの記入指導、面接指導、筆記試験対策等を通じて、学生が希望する企業・職業への内定を得られるよう支援を行い、業界内就職率 100%の達成を目指した。